

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 愛信芳主会	代表者	塚本主恵夫	法人・ 事業所 の特徴	カトリック精神に基づき愛と真心を持って福祉事業に努める。 「施設理念」として①笑顔を提供する ②とにかくやってみる ③残りの時間を大切に 考える ④本人や家族の想いを考える ⑤プロとして学び行動する
事業所名	丘の上倶楽部片倉	管理者	亀井裕之		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	0人	3人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①常勤はスタッフ個別評価へのコメント記入を徹底します ②全員参加会議を年2回開催する ③事業所自己評価のまとめに関わる職員を増やす	誰が常勤か判らなかつた 職員の自己評価を見ると、目標に対しての達成度が低い 具体的な取組みがない	段階を踏んだ計画を立てた方がよいのでは 目標を決める前に情報収集やアセスメントが必要	①中間点で目標の再確認と達成度の評価を取り入れる。達成度が低い場合は見直し、修正を加える
B. 事業所のしつらえ・環境	①誘導看板の設置 ②サービス内容などを建物前に掲示外部からでも判りやすくする	誘導看板が出来たが、一方向からしか見えない サービス内容などの建物前の掲示は無い インターホンを押さないと対応出来ないの で、入りやすいとは言えない	住宅なのか、何なのか判らない 中が見えないので声を掛けにくい 閉鎖的な施設だと思われる 法人の方針として、こういったしつらえなの ではないか 鍵については、不審者の侵入防止対策も必要 ではないか	①インターホン又は自動ドアを工夫し、声を掛け易くする ②サービス内容などを建物前に掲示し、外部からでも判りやすくする
C. 事業所と地域のかかわり	①地域での催し（市民センター祭り、盆踊りなど）に参加する ②地域の困り事を相談できる所である事を周知する ③小規模多機能型居宅介護について周知をする	アピールが足りない 具体的な方法が取れていない	外観からは介護事業所として判らない 作品展などにパンフレットを置いてみてはどうか 建物の2階にある事業所として、開放的な運営が難しい	①インターホン又は自動ドアを工夫し、声を掛け易くする ②サービス内容などを建物前に掲示し、外部からでも判りやすくする ③地域のイベントや行事に参加する
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	①利用者が今まで行っていた場所への同行など、自宅での生活を継続する支援をします。	事業所の周知が出来ていないので、利用者以外の地域住民の情報がない 市民センター祭りなどに参加した医療機関や買い物への同行をしている	利用者以外の情報が無く、近隣との関わりが無い	①利用者が今まで行っていた場所への同行など、自宅での生活を継続する支援をします。
E. 運営推進会議を活かした取組み	①運営推進会議への参加者を増やす（家族・本人） ②地域への浸透 サービス内容のPR	稼働状況などだけでなく、普段の様子や写真など、具体的な支援の報告があってもよいのではないかと 地域との関わりが無いので、事例の検討もしていない	地域の困り事として、食事会の時に福祉車両の用意をしてくれると助かる 小規模多機能型居宅介護自体が判りにくい	①運営推進会議にて資料などを工夫し、普段の生活や活動が判る報告を行う ②個別事例の紹介、相談を行い、結果をサービスに取り入れる
F. 事業所の防災・災害対策	①地域の防災訓練に参加します。 ②事業所の防災訓練に地域や外部との連携を組み込みます。 ③BCP（事業継続計画）についての訓練を取り入れます。	地区の防災訓練が行われていない 事業所の防災訓練に外部の参加を声掛けていない	地域との防災訓練で、車いすの操作をしてもらっている事業所がある 起震車を依頼して防災訓練を行った所もあった 本当に避難が必要になったら職員だけでは出来ない	①避難訓練実施の告知 ②BCP（事業継続計画）についての訓練を実施する